

# たぐすい

TAKUSUI  
No. 678

4

April, 2013

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



明石公園の桜

**全国漁協功労者表彰** ～JF富島 小西組合長が受賞～

**兵庫JCC協同組合研究交流会**

**「ぷりっぷりっ!アサリの旬を味わおう!」**

～西宮市貝類館で料理教室を開催～

# ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「直しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる」）

## 《意外なこと》

兵庫県信用漁業協同組合連合会 専務理事 **里 昭彦**



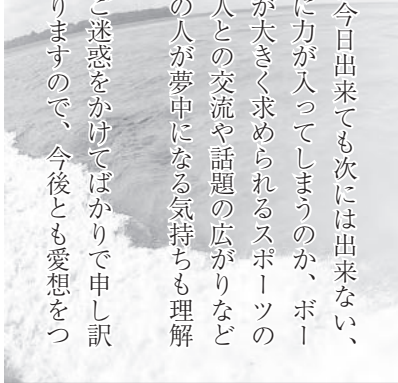
先日、テレビで「温めると意外においしい食べ物」という調査をしていました。おいしい5品のランキングは、メロンパン、ヨーグルト、ミカン、マシユマロ、納豆の順でした。その他、ビールは商品化もされているようですが、コーラ、チーズ、プリン等々。発想の転換のために皆さんも一度試されてみてはいかがでしょうか？

まさか一生するとは思っていなかったゴルフを、昨年、この歳になって始めました。信漁連に入会して32年、パターゴルフ以外一度もクラブなど握ったことはありません。好きなことは車の運転くらいで、スポーツとはいえば高校時代の柔道部での活躍(?)と学生時代に経験したスキー程度です。努力が信条ですが、運動オンチで球技が苦手な私は、人間どう努力しても所詮無理なものがあるとの諦めのもと、運動とは無縁な生活を送ってきました。周囲からの勧めもあつてゴルフを始める決意に至るのですが、仕事は苦にならなくてもこればかりは清水の舞台から飛び降りる決心でないと始められない。家で相談してみると案の定『青天の霹靂』で、車通勤で歩かない私を見て「足が無くなっている」と言っていた家族は大騒ぎでした。

意を決してスクールへ！

予想通り、今までに経験したことのない体の動きに今日出来ても次には出来ない、悪戦苦闘の連続です。コースに出れば飛ばそうと余計に力が入ってしまうのか、ボールは意図しない方向へ…。理論と同時にメンタルな面が大きく求められるスポーツのようです。しかしながら、ボールを打つことの快感、人との交流や話題の広がりなど経験してみないとわからないことも随分とあり、多くの人が夢中になる気持ちも理解できました。今では始めて良かったと思っています。

コースを一緒に回って下さる心優しい皆さんには、ご迷惑をかけてばかりで申し訳ない次第ですが、仕事ともども練習に精を出してまいりますので、今後とも愛想をつかさずお付き合いの程、よろしくお願いいたします。



## CONTENTS

No.678 April. 2013

- 2 ようこそ
- 3 小西正治氏(JF富島)が漁協運動功労者表彰を受章されました!  
但馬地区ズワイガニ漁終了  
新JF組合長のご紹介
- 4 兵庫JCC協同組合研究・交流会  
「浜ほたる」の出荷が始まる!
- 5 瀬戸内海再生議員連盟 第3回勉強会開催される!!  
事務局長・末松 信介参議院議員が会議をリード  
組合事務所上棟式を開催
- 6 浮力合羽着用で助かった命
- 7 命を守る運動「海上安全講習会」  
「ぶりっぶりっ!アサリの旬を味わおう!」
- 8 淡路市岩屋で「浦祈禱祈願祭」が行われました
- 9 兵庫県農政環境部 農林水産局 水産課 & 漁港課 配席図
- 10 兵庫JCC通信
- 11 旬に想う  
大輪田塾だより
- 12 第35回 全国海の子絵画展 県内の2作品が入賞!



### 表紙の言葉

### 明石公園の桜

JR明石駅のホームに降り立つと見えるのは、2基の櫓に白壁と見事な石垣。

明石城(別名:喜春城)は、徳川家康の曾孫である小笠原忠真によって、古くから交通の要衝であるこの地に築城されました。巽櫓を市内の船上城から、坤櫓は京都の伏見城から移築し、同時に行われた城下町の町割りでは宮本武蔵が指導をしたと伝えられます。

動乱の時代をくぐり抜けた櫓を持ち、日本百名城の1つに数えられる明石城。現在、明石公園となり「日本さくら名所100選」に選ばれる桜の名所として知られ、春には満開の桜をめぐる人たちが賑わいます。

## 小西正治氏（JF富島）が 漁協運動功労者表彰を 受章されました！

◎ 2013年度（第28回）漁協運動功労者表彰 受章

JF富島 代表理事組合長 小西正治氏

JF全漁連は、3月5日（火）に2013年度漁協運動功労者34人を決定し、発表しました。

本県からは、JF富島代表理事組合長小西正治氏が「組合役員就任後、38年間にわたり組合事業の円滑運営に努め、代表理事就任後は的確な判断と卓越した行動力で組合の経営基盤強化に貢献」、「本県水産系統団体の要職に就き、水産業の振興発展に大きく貢献」された功績が認められ、受章されました。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。



小西 正治 氏



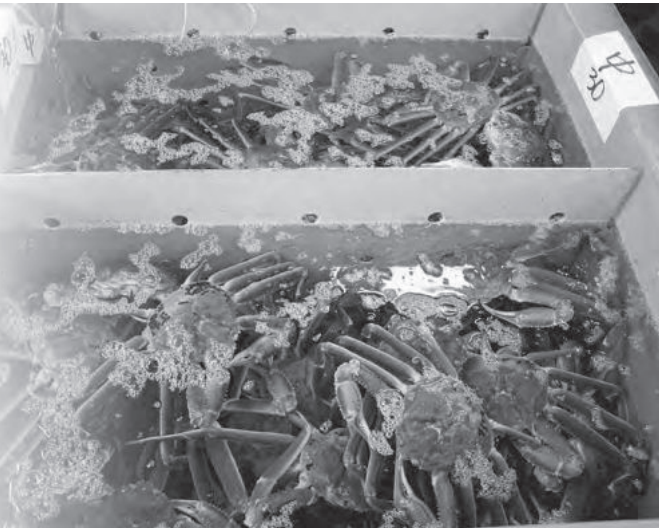
【おことわり】

小西正治氏は3月19日（火）のJF富島通常総会で組合長を退任されました。

本記事は受賞確定時のものであり、当時の職名のまま掲載させて頂きました。

## 但馬地区ズワイガニ漁終了

### JF兵庫漁連 但馬支所



但馬地区の冬の主幹漁業であるズワイガニ漁が3月20日（水）で漁期を終え、最終セリが21日（水）に行われました。

今漁期の総漁獲量は1,231トン（前年比87.8%）で、オスガニ（松葉ガニ）・メスガニ（セコガニ）・ミズガニ（若松葉ガニ）の漁獲量はそれぞれ461トン（前年比93.2%）・594トン（前年比99.3%）・175トン（前年比56.9%）でした。

特に、1月から解禁したミスガニは、ホタルイカの好漁により、カニよりもホタルイカ漁を選択した操業が多かったため、大きく水揚げを落としました。

総漁獲金額については、漁獲量が少なかったため、いずれのカニも単価は上がりましたが31億2千9百万円（前年比約98.4%）となりました。

## 新JF組合長のご紹介

平成25年1月～3月までの間に、新たにJF組合長に就任された方の御名前をご紹介します。

- JF東由良町 代表理事組合長（前）森下 登氏→（新・3月9日就任）須賀 正信氏
- JF富島 代表理事組合長（前）小西 正治氏→（新・3月21日就任）田中 孝氏
- JF湊 代表理事組合長（前）平石 剛敏氏→（新・3月16日就任）杉谷 富弘氏

※(財)兵庫県水産振興基金確認分

## 兵庫JCC協同組合研究・交流会 ～兵庫JCC協同組合研究・交流会～

### JF兵庫漁連



カキの殻むき実習の様子

生協・JA・JF・森林組合で構成する兵庫協同組合連絡協議会(兵庫JCC)は、2008年度より「兵庫JCC協同組合研究交流会」を行っており、今年で5回目を迎えました。昨年度から「協同組合」の現場を見学し、生産者・消費者間の交流を深める内容の研修を行っており、本年度は漁業をテーマに開催されました。

3月9日(土)、明石市の兵庫県水産会館には、県内各地から農業・林業・水産業・生協等の生産者・組合員ら合わせて約70名が集まるなか、午前の魚料理教室に続き、午後には講演、意見交換会が行われました。

魚料理実習を行った同会館4階の調理実習室は、通常行っているシートクラブ料理教室の3倍以上となる参加者が入り満員の状態でした。JF兵庫漁連 隅谷翠主任からイカナゴのくぎ煮、イカナゴハンバーグを、田中久善次長からはカキの殻むきの実演があり、参加者はメモを取りながら熱心に調理をしていまし



様々な漁業の話を披露された戎本組合長

た。出来上がった料理は炊き立てのご飯と味噌汁とともに昼食に出され、美味しく頂きました。

午後はJF明石浦 戎本 裕明組合長より「イカナゴ」から考える私たちの暮らしと瀬戸内海の環境」と題した講演があり、イカナゴ漁の紹介をとおして、瀬戸内海側の漁場環境や、漁業に求められる多面的機能の紹介などを話されました。質疑応答で、戎本組合長は後継者問題について「とにかく儲かるようにする。そのために現在、漁業に携わっている我々が全力を傾ける必要がある」とされ、参加者は熱心に聞き入っていました。

最後に行われた意見交換会では7班に分かれたところに漁業者が1人ずつ入り、様々な質問に答える形で進められました。消費者の皆さんから熱心な質問を受け、漁業者からも「魚は高いと思いませんか?」といった質問をするなど活発な意見が交わされ、漁業に対して理解が深まった一日でした。

次回は農業をテーマに開催される予定です。



会場の調理実習室は満員!



この日調理した明石ダコのマリネ、坂越産カキを使った酢がき、イカナゴのくぎ煮、イカナゴハンバーグ(手前から)

## 「浜ほたる」の

### 出荷が始まる!

～JF浜坂町職員がPR～

#### JF兵庫漁連 但馬支所



JF浜坂町(川越一男組合長)では、鮮度の良い生ホタルイカならではの味を、消費者に届けるための商品「浜ほたる」のスーパーへの直接出荷が始まりました。家庭で手軽に茹でたり佃煮にでき

るホタルイカをもっと知ってもらいたいと始まったこの取組みは、今年で4年目となります。

夜、水揚げ後、船上でナイロンチューブに詰めて冷却された「浜ほたる」は、トラックで運

ばれ翌朝には神戸・姫路方面の店舗に並べられます。

今年もイオンやコープこうべに同JF職員が出張し、PRや販売を行っていきます。

店頭販売にはたくさんの方が足を止め、春を告げる風物詩として「浜ほたる」は消費者に広がりつつありま

す。

す。



店舗での販売の様子

# 瀬戸内海再生議員連盟 第3回勉強会開催される!! 事務局長・末松 信介参議院議員が会議をリード

4月3日(水)、瀬戸内海再生議員連盟の第3回勉強会が自由民主党本部で開催され、出席した議連参加議員28名(代理を含む)は、瀬戸内海における漁業ならびに養殖業の現状について水産庁から説明を受けたあと、活発な議論を行いました。また、現場の声を直接聞く目的で、瀬戸内海関係漁連・漁協関係者12名も同席しました。

会議の冒頭、事務局長を務める末松 信介参議院議員(兵庫)は「時代が大きく変化している中で、瀬戸内法は制定されて40年が経過する。この間、海には大きな変化が出てきている。昭和35年当時から藻場は72%減少、干潟も42%減少し、ノリや魚など漁業環境は悪化している。この議員連盟は瀬戸内海の再生のため、どのような法律が考えられるのか、魚が減っていることと栄養塩はどういう関わりがあるのか、生物多様性をどう考えるのかを議論し、瀬戸内海環境保全特別措置法の改正

に関して研究を深める会であるので、皆さんの活発な議論をお願いしたい。」と挨拶されました。このあと、水産庁増殖推進部 香川部長から、瀬戸内海における漁業・養殖業の生産量の推移や資源状況、赤潮発生状況、貧栄養によるノリの色落ちの状況並びに資源



挨拶を行う末松議員(左)

増大への取組事例などについて説明がありました。

一方、瀬戸内海関係漁連・漁協からは「資源が増えている魚種があるものの、殆どの魚種の漁獲量は激減しており、瀬戸内海の漁業に明るい将来はない。」と、資源状態が極めて悪化している漁業の困窮を訴える意見が出されました。出席議員からは「魚介類が減少しているのは明らかで、具体的な対策を示した上で、もう一步踏み込んだ議論を行うべき」との意見や、広島にある大型水理模型実験施設の活用などを例に挙げ「行政は何をしているのか。水産庁、国交省、環境省は縦割り意識を無くし、連携して瀬戸内海再生に思いきった施策を講ずべきであり、各省庁の議論ばかりで前に進まないという弊害を無くせ」など意見が出されました。最後に、末松議員は今後の議員連盟の進め方として「有識者並びに地元府県知事の意見を聞くための勉強会を1回ずつ開催した上で、具体策の議論に移りたい」との意向を示し、会議を締めくくりました。

## 新生JF由良町 組合事務所上棟式を開催



▲上棟式の神事の様子

1月1日付けの合併により誕生した由良町漁業協同組合(武田 政和組合長)は、3月30日(土)、事務所の上棟式を行いました。式には、新JF役員をはじめ洲本市竹内 通弘市長ら市の関係者が出席し、神事が執り行われました。今回の上棟式は、旧JF由良町中央の事務所だった建物の二階部分(約20坪)を増築するために行われたものです。神事のあと、上棟式と新生「由良町漁業協同組合」のお披露目をかねて、盛大に餅まきも行われました。なお、施設の完成は5月下旬頃を予定しています。

▼餅まきには大勢の方が集まりました



## 浮力合羽着用で助かった命

### 「JF淡路島岩屋古川さんが取材協力」

JF兵庫漁連が、昨年4月から独自に開発し、改良を重ねた浮力合羽。

この度、この浮力合羽を着用して救助された方がいらつしやるとの情報を得て、取材を申し込んだところ「皆さんのためになるなら」と快諾を頂きましたので紹介させていただきます。

ご協力いただいたのはJF淡路島岩屋で船曳網漁業に従事されている古川末吉さん（54才）。古川さんによると、その日は、波もなく穏やかで、いつものように出港。午前6時頃、明石海峡3号ブイ付近の漁場に到着。落水したのは、網の投入作業時のごとで、潮の流れと船の行き足の影響で、勢いよくフロートが飛んできて、そのはずみで背中から落水してしまつたとのこと。このとき、浮力合羽を着ていたおかげで、体は海中に沈まず、海面に叩きつけられた状態になり、その反動で目の前の、船のペンドルに掴まる事が出来たそうです。潮流の速いところでもあり、流される危険もありましたが、すぐに仲間を引き揚げられ事を得ました。古川さんは「この合羽のおかげで海中に沈まなかった。髪もほとんど濡れなかった程。もし流されても浮いていたと思うが、着ていなかったらと思うとゾッとする。間違いなく流されて沈んでいた。」と話されました。

また、同席されていた同JF東根壽組合長は「組合の船曳網協議会で浮力合羽の着用を義務付けているので、今は全員が着用している」と話され、その

取組みが功を奏した形となりました。古川さんは「以前、使っていたベルト式救命具は、バックルの部分が網に引っかかることがあったが、この合羽では問題ない。はじめは窮屈に思えたが、慣れれば気にならない」と話されました。

今回の取材は、日常の作業の中に常に危険が潜んでおり、その備えの重要性を再認識させられるものでした。最後に、古川さんのご厚意で取材を実現することが出来ましたこと、また、取材へのご配慮、ご協力を頂きました同JF東根組合長、長野達矢参事にこの紙面を借りまして御礼申し上げます。



浮力合羽を手にする古川さん



JF兵庫漁連職員による浮力合羽の実演

JF兵庫漁連は、海中転落による海難事故が後を絶たない中で、昨年4月から独自に開発・改良を重ねた浮力合羽の普及に努めています。現在、約2,100着の販売がなされ、今後も海難事故を防ぐため普及に努めていきます。

この浮力合羽の申し込み・お問合せは、各JFまたはJF兵庫漁連 資材部  
TEL: 078-942-9272  
までお願いします。

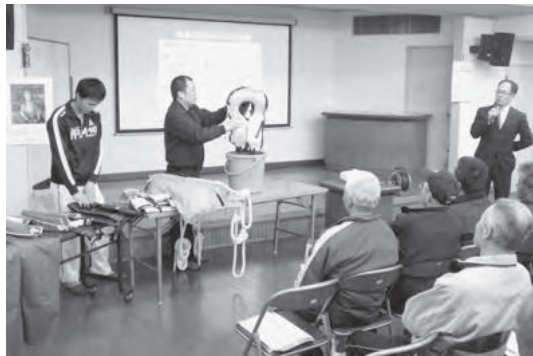
# 命を守る運動「海上安全講習会」

～JF明石浦で開催～



会場には多くの漁業者が詰め掛けました

JF兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・兵庫県内海漁船保険組合・(公財)ひょうご豊かな海づくり協会・(財)兵庫県水産振興基金の系統5団体は、開催の要望のあったJFと共に「海上安全講習会」を各地で開催していますが、取組み開始後約3年間で、県内でのべ約1,400名もの皆さんが受講されました。これからも各地で開催していきます。開催を希望されるJFは、JF兵庫漁連指導部(078-940-8013)までご連絡下さい。



膨張式ライフジャケットの実演風景

3月17日(日)、明石市の当津会館においてJF明石浦(戎本裕明組合長)が、神戸運輸監理部筒井宣利課長を講師に迎え、ライフジャケット着用推進等を主な内容とした講習会を開催しました。当日、会場には約100人もを受講者があり、関心の高さが伺われました。

講習会では、戎本組合長の挨拶のあと、筒井講師よりライフジャケット着用に関する法律の説明の他、様々なタイプのライフジャケットの紹介がありました。講師は「命を大切にしてください」と呼び掛けられ、参加者らが自らライフジャケットの重要性に気づき、着用されることを期待されました。終了後には多くの方が、見本のライフジャケットを手に質問する姿が見受けられました。

JF兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・兵庫県内海漁船保険組合・(公財)ひょうご豊かな海づくり協会・(財)兵庫県水産振興基金の系統5団体は、開催の要望のあったJFと共に「海上安全講習会」を各地で開催していますが、取組み開始後約3年間で、県内でのべ約1,400名もの皆さんが受講されました。これからも各地で開催していきます。開催を希望されるJFは、JF兵庫漁連指導部(078-940-8013)までご連絡下さい。



アサリについて講演される中川組合長

3月24日(日)、西宮市貝類館の主催による料理教室「ぷりっぷりっ！アサリ」の句を味わおう！が西宮市貝類館に隣接する西宮浜公民館にて開催され、JF室津中川照央組合長とJF兵庫漁連SEAT-CLUB(シートクラブ)が講師として招かれました。

調理実習に先立ち、まず、漁連担当者が、パンフレット「かつて瀬戸内海は宝の海だった」を使い、瀬戸内海の環境と漁業者の取り組みについて説明をし、続いてJF室津の中川組合長よりJF室津におけるアサリ養殖の紹介を行いました。

室津のあさりを使った調理実習は、同漁連シートクラブ 隅谷翠主任が講師を務め、アサリ飯・アサリの酒蒸しなどアサリ料理のほか、日本海で旬を迎えたホタルイカを使ったサラダの調理を実演しました。調理中に、参加者からアサリについての質問などがあり、これに中川組合長・隅谷主任が回答する形で進行了ました。

## 「ぷりっぷりっ！アサリの句を味わおう！」 西宮市貝類館で料理教室を開催

JF兵庫漁連 広報部

3月24日(日)、西宮市貝類館の主催による料理教室「ぷりっぷりっ！アサリ」の句を味わおう！が西宮市貝類館に隣接する西宮浜公民館にて開催され、JF室津中川照央組合長とJF兵庫漁連SEAT-CLUB(シートクラブ)が講師として招かれました。

調理実習に先立ち、まず、漁連担当者が、パンフレット「かつて瀬戸内海は宝の海だった」を使い、瀬戸内海の環境と漁業者の取り組みについて説明をし、続いてJF室津の中川組合長よりJF室津におけるアサリ養殖の紹介を行いました。

室津のあさりを使った調理実習は、同漁連シートクラブ 隅谷翠主任が講師を務め、アサリ飯・アサリの酒蒸しなどアサリ料理のほか、日本海で旬を迎えたホタルイカを使ったサラダの調理を実演しました。調理中に、参加者からアサリについての質問などがあり、これに中川組合長・隅谷主任が回答する形で進行了ました。

試食の際には、漁連担当者から、日本海のホタルイカ



▶アサリ、ホタルイカ、ノリと参加者は大満足でした!



## 淡路市岩屋で

# 「浦祈禱祈願祭」が行われました

### ～JF淡路島岩屋が協力～

(財)兵庫県水産振興基金



本殿での祈禱祈願の後につづき、海上パレードでは恵比寿様と神輿を乗せた漁船のほか、見学者40名が4隻の漁船に分乗しました。当日の天気は雨で、しかも見学者から「こんな天気でも船を出すなんて、漁師さんも大変ですね」との声も上がるような強風で、開催は危ぶまれましたが、無事に通航でき、タイの放流を行いました。

屋には、つけ焼きのフルセを使ったノリ巻きや、クチジャコ(グチ)・スズキ・サザエを使ったブイヤベースが

淡路島に春を告げ、1年間の大漁・豊作を祈願する「浦祈禱祈願祭」(主催：石屋恵比寿舞奉賛会)が、3月10日(日)、淡路市岩屋の石屋神社で執り行われました。JF淡路島岩屋(東根組組合長)は、船渡御(海上パレード)や、参拝者らへの振舞料理の提供をするなどの協力を行い、やや荒れ気味の天候でしたが町は活気に満ちた1日となりました。



エビス様を乗せて海上パレード



無料配布に長い列が出来ました

振舞料理(約300人分)として無料提供されたほか、イカナゴのくぎ煮釜揚げ、カナギチリメンの即売も行われました。フルセのノリ巻きの評判が大変良く、ブイヤベースも早々に提供終了となりました。

この後、江戸時代中期に始まったとされ、豊漁を祈願する浜芝居「恵比寿舞」が行われました。東根組組合長によると、地元で「でこ芝居」といわれる人形で行っていたものが途絶え、1980年頃に人形の代わりに人が演じるようになったとのこと。近年は後継者がいなくなりましたが、石屋神社の氏子で同JFの組合員が研修を経て、この度2年ぶりに行われました。狩衣を着て釣竿を担いだエビス様が、庄屋の家で接待を受け、酒を飲みなが

らいるいろいろな魚の名前を挙げて豊漁を祈り、最後に酔ったエビス様が舞を納め、船からタイを釣り上げて「めでたし、めでたし」で終わるといふもので、久しぶりの浜芝居に見学者は見入っていました。

同JFは従来からの船を出すといった協力に加え、今回、振舞料理の提供など新たに取組んだことについて、東根組組合長は「伝統文化を通じて、町の活性化に努めるとともに、岩屋の魚のPRになれば」と期待を寄せられ、同JF 新居 只吉筆頭理事は「今年の経験を活かし、来年以降はより一層盛り上げるようにしたい」と抱負を語られました。



2年ぶりの浜芝居

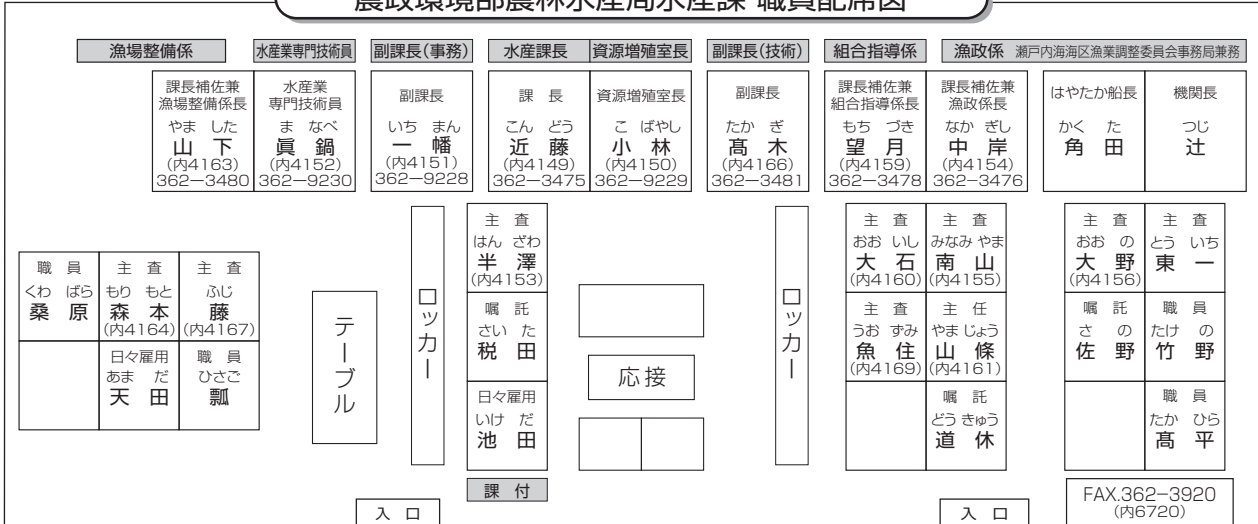
(このページの写真提供はJF淡路島岩屋です)



# 兵庫県農政環境部 農林水産局 水産課 & 漁港課 配席図

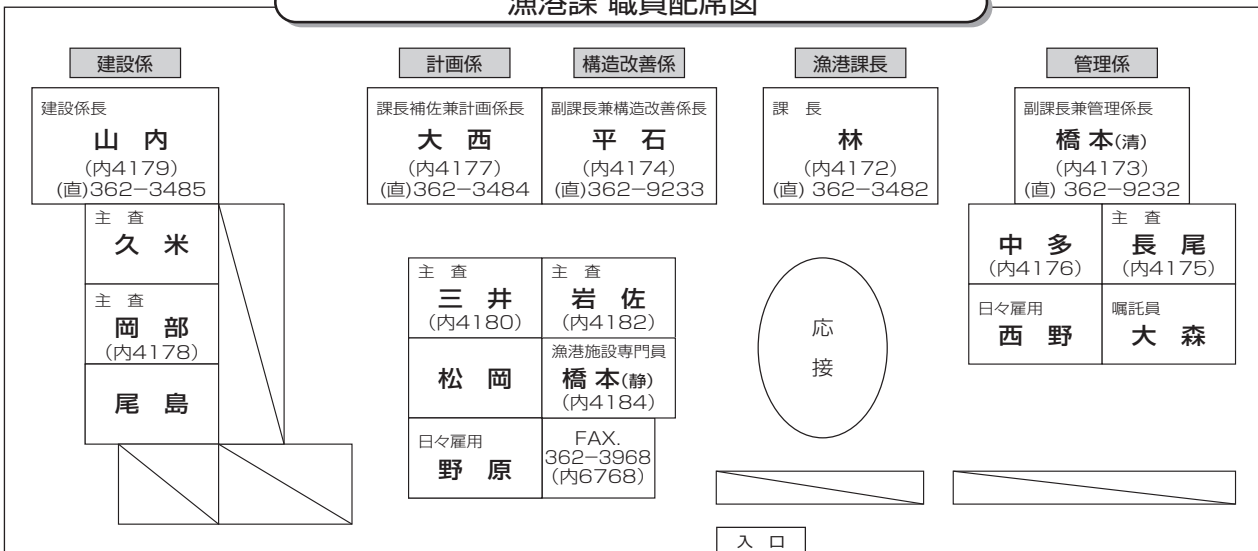
平成25年4月1日現在

## 農政環境部農林水産局水産課 職員配席図



- |  |  |   |
|--|--|---|
| <b>漁場整備係</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①漁場整備開発事業に関する事</li> <li>②豊かな海の再生に関する事</li> <li>③漁場環境の保全に関する事</li> <li>④離島漁業の支援に関する事</li> <li>⑤水産物の安全確保に関する事</li> <li>⑥保護水面の管理に関する事</li> </ol>  | <b>水産業専門技術員</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①沿岸漁業等に関する調査研究及び普及指導員の資質向上に関する事</li> <li>②水産業改良普及に関する事</li> <li>③水産物の加工流通に関する事</li> <li>④栽培漁業の推進に関する事</li> <li>⑤養殖業の振興に関する事</li> <li>⑥水産新分野の開発に関する事</li> <li>⑦(公財)ひょうご豊かな海づくり協会に関する事</li> <li>⑧水産関係統計に関する事</li> </ol>   | <b>課 付</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①課業務の総合調整及び庶務に関する事</li> <li>②総務課との連絡に関する事</li> <li>③文書及び公印の管理に関する事</li> <li>④但馬水産事務所との連絡調整に関する事</li> <li>⑤課内各係に属さない事</li> </ol> |
| <b>組合指導係</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①水産業協同組合の指導、監督に関する事</li> <li>②漁業協同組合の経営基盤強化に関する事</li> <li>③漁業協同組合の合併推進に関する事</li> <li>④水産制度金融、漁業共済、漁業信用保証に関する事</li> <li>⑤産地卸売市場に関する事</li> <li>⑥漁業の担い手対策に関する事</li> <li>⑦勲兵庫県水産振興基金に関する事</li> </ol> | <b>漁政係</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①水産行政の企画立案及び調整に関する事</li> <li>②漁場計画立案及び漁業の免許登録に関する事</li> <li>③漁業の許可及び漁業調整に関する事</li> <li>④水産資源管理対策に関する事</li> <li>⑤内水面漁業の振興に関する事</li> <li>⑥海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に関する事</li> <li>⑦漁船の建造等の許可、登録、及び積量の測定に関する事</li> <li>⑧漁業取締りに関する事</li> <li>⑨漁船損害等補償法、遊漁船業、観光漁業、漁業無線局に関する事</li> <li>⑩災害による被害等情報に関する事</li> <li>⑪海洋開発事業と漁業の調整に関する事</li> </ol> |   |

## 漁港課 職員配席図



- |  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| <b>建設係</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①県管理の漁港及び漁港海岸事業の実施に関する事。</li> <li>②市町管理の漁港及び漁港海岸事業の指導監督に関する事。</li> <li>③漁港の災害復旧に関する事。</li> </ol> | <b>計画係</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①漁港及び漁港海岸の整備計画及び調査に関する事。</li> <li>②漁港施設用地の計画及び調査に関する事。</li> <li>③海岸統計に関する事。</li> </ol> | <b>構造改善係</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①漁業構造改善事業に関する事。</li> <li>②水産物の流通加工対策に関する事。</li> <li>③共同利用施設の管理運営に関する事。</li> <li>④共同利用施設の災害復旧に関する事。</li> <li>⑤漁港漁村における地域活性化施策推進に関する事。</li> <li>⑥漁港港勢調査に関する事。</li> </ol> | <b>管理係</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①漁港、漁港海岸利用の占使用事務に関する事。</li> <li>②漁港及び海岸保全区域における国有財産に関する事。</li> <li>③県営漁港財産の取得、管理及び処分に関する事。</li> <li>④漁港及び漁港海岸の指定及び管理に関する事。</li> <li>⑤漁港及び漁港海岸の事業事務に関する事。</li> <li>⑥ブレイジャーボート対策の総合調整に関する事。</li> <li>⑦文書及び公印の管理に関する事。</li> <li>⑧課内各係に属さない事。</li> </ol> |
|--|--|--|--|

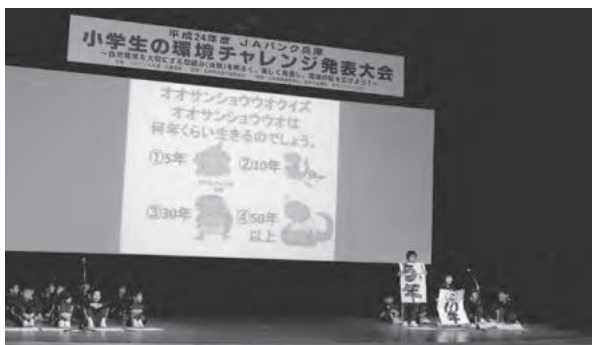
## 「JAバンク兵庫 小学生の 環境チャレンジ発表大会」開催 ～県内10小学校の児童らが 環境活動の成果を発表～

JAバンク兵庫は2月23日（土）、「小学生の環境チャレンジ発表大会」を神戸市西区の流通科学大学「RYUKAホール」で開催しました。

今年度で5回目となる同大会は、JAバンク兵庫が取り組む「小学生の環境保全教育応援事業」の一環として行われたもので、同事業の趣旨に賛同し、環境活動実践に応募があった県内小学校331校の中から積極的な取り組みを行っている10校の、児童・保護者ら約600人が参加し、各小学校による環境活動体験発表が行われました。

今年度のコンセプトは「自然環境を大切にする取り組み（体験）を明るく、楽しく発表し、環境の輪を広げよう!」。参加した児童たちは、ホタルの飼育や里山の観察のほか、米づくりや地元特産品の栽培を通じた地域の方々との交流など幅広いテーマで、環境活動の取り組みを元気に発表しました。

小学校名	テーマ
三木市立別所小学校	わんぱく探検隊 ～ハープでつなぐ人と環境～
神戸市立池田小学校	自給自足にチャレンジ! ～給食の材料を自分たちの手で～
神戸市立太山寺小学校	ホタルがすむ豊かな自然を守って いこう
高砂市立北浜小学校	守ろう、里山の自然 一本松のわたしたちの森
丹波市立西小学校	地球のためにリサイクル
朝来市立中川小学校	大切なおくりもの ～岩津ねぎ～
南あわじ市立松帆小学校	僕たちの誇り ～米作りに挑戦～
佐用町立上月小学校	身近な自然と環境を考えよう ～ホタルとオオサンショウウオが いる町～
宍粟市立波賀小学校	森に学び、森の恵を感じる学校
加西市立泉小学校	大発見! 石部の杜たんけんたい ～自然とふれあい、いろいろな 生命をみつめよう～



元気に発表する児童たち

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

## マクロビオティックとは!? ～講座編～

生活協同組合コープ自然派兵庫は、1月23日（水）神戸市西区民センターにて『マクロビオティックとは!? ～講座編～』を開催しました。講師はマクロビオティックの勉強を始めて10年になる古川 昌代さんで、寒いなか、小さなお子さまを含む16名が参加し、関心の高さを伺わせました。

古川講師は「MACRO（マクロ＝おおきな）＋BIO（ビオ＝生命）＋TIQUE（ティック＝術）」は単なる健康法ではなく“哲学”として捉え、私たちの生活に、その基本的な考え方を取り入れるための様々なヒントをお話頂きました。なかでも「極端に走らない」「バランスを取る」「長い目で見る」ことが大切と繰り返し話されました。

受講後の感想としては「これまでの食事や生活を振り返る良いきっかけになった」、「無理をせず、少しずつできることを取り入れていこうと思った」などのほか、講師の古川さんのお人柄、生き方に魅かれたという方も多かったようです。

なお、続編として「マクロビオティック料理入門編」を5月に開催する予定です。



<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

### お詫び

3月発行の拓水第677号で下記について表記に誤りがありました。関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正して、お詫び申し上げます。

14頁下部 「キッズキッチンにおいてよ!撮影終了しました」の写真キャプション

(誤) 西本 丞乃輔くん → (正) 西本 潤之丞くん



# 旬に想う

あかん・かん 写真文  
遊方子

◆「急(せ)えて急(せ)かん」とは、急ぐようで急がない意味だが、実際は余りゆっくりしておれないと婉曲に言っている。こういう仕事を請け負ったら、出来るだけ早く仕上げなければならぬ。関西弁の判り難い面白さだろう。「あかん・かんにん」は関西で普通に使う言葉だが、人を強く責める時も、謝る時にも少し調子を変えれば良い。またNOの意味にも使えて重宝な言葉に違いない。アカンは「あく」の否定語だが、垢があく・扉があく等、可能が不可能になった場合にも使う。もう駄目ですは「アカヘン、アキマヘン」になる。

◆或る夫婦喧嘩で「アホぬかせつ、このポケツ、死ぬカス」と怒鳴り、離婚するハメになった。アホ・ポケ・カスのトリオは、かなり酷く人を陥しめる悪たれ語である。それを同時に言われたらブチンと切れて当然かも知れぬ。関西弁には感情的な「悪たれ語」の語彙が非常に豊富である。アホはアホオでなく、短くアホと発音する事で、花曇りのようなボウツとした感じとなる。バカと言えば夏の強い光線を浴びたようで「ナニを」と返答したくなり、喧嘩がエスカレートする。東京で働いていた頃、長崎と宮城県出身の仲間がいたが、そこへ関西弁が入って、夕食後は賑やかな方言合戦を演じて、実に愉快で痛快だった。

◆「ヌプリの会」は山好き8人の同好会だったが、メンバーの間で巡回ノートを持て自由好きな事を記していた。筆者の番になり、全文を関西弁にして山登りの報告を書いた。これが江戸っ子の仲間で大受けして「ああシンド」が、それ以降の山歩きで笑いの材料になった。この言葉は実に便利に使えて、疲れた・苦しい・気苦労などをも代弁して笑えるのである。「カンニン」は若い女性が使えば艶があり、「カンニンなア」はおばさん臭く、おっさん風な表現では「カンニンしたつてや」になる。方言の持っている面白さであるのか。

◆方言の研究は広く地方に及んでいて、研究書も実に多く新しい調査報告が次々と出版されている。大阪弁は攻撃的できつい言葉だと捉える人もいるが、かなり皮相的な見方のように思う。商人町として発展した大阪は、横の繋がりを大切にしている風潮があり、言葉尻に「ナ」をつけ相手に同意を求め、至って平和的な言葉だと思えるのである。ただ、朦朧とした生温さと、悠長に過ぎる所が嫌われる因かも知れぬ。或る落語家が、大阪の街中に在る看板をオール大阪弁にしたら、独特な大阪文化が生まれるんじゃないかと言う。愉快な発想だ。標準語のつまらなさに気付けば、この稿は成功したようなモンでっせ。ホナ。

## 大輪田塾だより



意見発表の様子

### 兵庫JCC協同組合研究・交流会出席と「漁業共済」・「海上安全とコミュニケーション」

3月の大輪田塾は9日(土)に認証講座、26日(火)に通常講座を行いました。

9日開催の兵庫JCC主催による「兵庫JCC協同組合研究・交流会」には塾生4名が参加しました。(4頁記事参照)意見交換で塾生は、各班に漁業者代表として入り、参加者から出された漁業への質問に回答しました。普段、消費者との交流が少ないなか、出された質問に新しい発見があったようです。

26日(火)の通常講座は、「漁業共済について」と「あなたは人にライフジャケットを着用させることができるか」の2課題を開講しました。

「漁業共済について」はJFぎよさい兵庫福本好宏参事と猿橋孝治室長が講義を行いました。先ず福本参事が、共済の成り立ちから、組織や制度の仕組みについて講話されたあと、猿橋室長は新積み立てプラスについて説明があり、塾生は理解を深めました。

続く「あなたは人にライフジャケットを着用させることができるか」コミュニケーションとプレゼンテーションの実例から」では神戸運輸監理部筒井宣利課長が講義を行いました。これまで、命を守る運動「海上安全講習会」の講師として各JFを巡回され、人事院メンターや産業カウンセラーの資格を持つ筒井講師は、ライフジャケットを着用しない心理や、人に物事を伝える難しさ、伝えるコツを話されました。講義にはコミュニケーションの難しさなどを体験する実習を行うなど、通常の座学とはやや趣の違ったものとなり、塾生ら参加者は楽しみながら学ぶことが出来ました。



#### 次回以降の大輪田塾(予告)

日時…平成25年4月23日(火) 13時30分から水産会館にて講義「栽培漁業の概要について」(仮題)

「アサリ概論」生態から増殖まで」(仮題)

日時…平成25年5月2日(木) 13時30分から水産会館にて講義「水協法概要」(仮題)

## 第35回 全国海の子絵画展

# 県内の2作品が入賞!

JF兵庫漁連・JF兵庫女性連



水産庁長官賞

加古川市立浜の宮中学校3年 足立 優子さんの作品

昨年10月に決定した「ひょうご海の子絵画」受賞作品(拓水No.675号: H25. 1月号参照)のうち、特に優秀であった10名の作品がJF全漁連主催「第35回全国海の子絵画展」に出品され、審査の結果、加古川市立浜の宮中学校3年 足立 優子さんが「水産庁長官賞」を、明石市立二見小学校4年 中出 月那さんが「農林中央金庫理事賞」を見事に受賞しました。

今回の絵画展は、全国24,200点の応募の中から、各県で選ばれた137点が全国展に出展され審査が行われました。表彰式は東京コープビルで3月26日(火)に開催され、特別賞入賞者28人の一人ひとりに賞状が手渡されました。



農林中央金庫理事賞

明石市立二見小学校4年 中出 月那さんの作品